

令和7年度 体育に関する指導改善計画

東広島市立

龍王 小学校

令和6年度の重点課題

- 新体力テストの総合評価の上位層
40.7%，下位層32.3%である。（AB-DE）
率8.4% 5年生）
- 第5学年の男子は、「反復横跳び」
および「50m走」が県平均値かつ全国平均
値より低い。
- 第5学年の女子は、「握力」および
「ボール投げ」が県平均値かつ全国平均値
より低い。
- 第5学年において、運動やスポーツを
することが「やや嫌い」と答える児童の割合
が男子で2.67%，女子で3.49%，
「嫌い」と答える児童の割合は男子で
4.00%，女子で3.49%である。

上記の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

- 「昔遊び週間」の実施
用具のいらない少人数での用具を使わなく
て遊ぶことができる昔遊びを委員会を通して
全校に紹介した（ごろごろ、おおかみさん
今何時、十字おん等）。屋休憩には、各遊びを
実施し、やり方を教える「昔遊び週間」を行うこ
とで、外遊びの選択肢を増やし、運動量を確
保することを目指した。
- 「校内ドッジボール大会」の実施
学年ごとに学級対抗ドッジボール大会を実
施し、集団で体を動かすことの楽しさや喜びを
味わわせる活動を行った。大会に向けて1か
月前から練習や目標設定を行い、意欲を高め
た。
- 「持久走記録測定」の実施
各学年ごとに定められた距離を自分のペー
ースで気持ちよく走り、自らの目標達成に向けて
取り組んだ。
- 体育科授業における運動量の確保
ラダーをグラウンドに設置したり、サーキット
の方法を担任に紹介したりする等して、体育
科授業内における運動量の確保と、体力向上
への意識向上を図った。
- 「ロング屋休憩」の実施
屋休憩に通常より長い40分間の休憩時間
を設定し、運動場で長い時間思い切り体を動
かし、外遊び励行の時間を定期的に設定した。

令和7年度新体力テストの結果 県平均値(令和6年度)・全国平均値(令和5年度)との比較

性別	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
男子 第5学年	15.34	19.39	33.42	40.93	55.68	9.51	148.85	21.01	52.64
女子 第5学年	15.45	18.28	38.34	39.51	42.21	9.67	146.62	13.83	55.29

県平均値かつ全国平均値未満

令和7年度新体力テストの結果 県平均値(令和7年度)・全国平均値(令和6年度)との比較

性別	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
男子 第5学年	15.34	19.39	33.42	40.93	55.68	9.51	148.85	21.01	52.64
女子 第5学年	15.45	18.28	38.34	39.51	42.21	9.67	146.62	13.83	55.29

県平均値かつ全国平均値未満

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか(%)

性別	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
男子 第5学年	74.29	21.43	4.29	0.00
女子 第5学年	61.11	28.89	8.89	1.11

学校独自の意識調査

性別	とても	まあまあ	あまり	まったく
男子 高学年	23.4%	20.5%	31.6%	24.5%
女子 高学年	53%	38.3%	5.8%	2.9%
男子 低学年	27.6%	33.3%	22%	17.1%
女子 低学年	60.7%	27.3%	8.5%	3.6%

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

重点課題

情意面での課題

- 男子
運動やスポーツをすることが「嫌い」と答える児童はいなくなったが、「やや嫌い」と答える児童の割合が4.29%である。「やや嫌い」と答える児童を「好き」「やや好き」にできるようにすることが課題である。
- 女子
運動やスポーツをすることが「やや嫌い」または「嫌い」と答える児童の割合が10.0%であり、前年度より多い。（前年度比3.02%↑）

体力面での課題

- 男子
「握力」「立ち幅とび」「50m走」が、県平均値かつ全国平均値より低い。
- 女子
「握力」が、県平均値かつ全国平均値より低い。

令和8年度の重点目標値

体育の授業で行う取組内容

- 体育科の学習内容に必要な技能を高めるために、楽しく有効なドリルゲームやタスクゲームを取り入れる。
- 運動場に設置された「投げるのうまくなるゾーン」「縄跳び台」「ラーダーゾーン」の活用で新体力テストに觸れる様々な動きを習得する。
- 昨年度に継続して、準備運動（10～15分）の中にACP（アクティブチャイルドプログラム）など心肺機能の高まる運動遊びを取り入れる。
- 児童が体を動かす場面で新たな動きが加わるよう、より多くの体力向上を促進する場を設ける（ラダー、ジャベリックボール、フォームロケットの活用など）。
- 児童の思考を促す、場の設定の工夫（ICTの有効活用、苦手児童がスマールステップで達成感を味わうことのできる教具の工夫等）。

体育の授業以外で行う取組内容

- 「校内ドッジボール大会」の実施。
- 「持久走記録測定」を継続実施し、日頃の練習の成果を発揮したり、自分の目標達成に向けて努力したりする。
- 「龍王縄跳びチャレンジ週間」を実施し、縄跳びを通して力いっぱい体を動かすことのできる機会を増やし、跳躍力等の体力向上につなげる。
- 外遊びへの意欲が高まる遊具の設置（一輪車、竹馬、ジャンピングボード）。
- 児童が自分で体力向上を目指せる場所を増設、整備する（ラーダーゾーン、投げるのうまくなるゾーン、ダッシュゾーン）。
- 室内で筋力アップにつながる器具を使用できる環境を整える（ハンドグリップ、ウォーターバッグ、バランスボードなど）

○運動やスポーツをすることは「好き」「やや好き」と答える児童の割合を第5学年男女とも90%以上（令和7年度は男子95.72%，女子90.00%）で継続する。

○新体力テストのすべての項目において、男女とも県平均値以上にする。